で御座います。田舍見た樣に廣漠たる野原で他樣の子供衆も一緒に思ふ存分遊ばすといふ事が出來れば、誠に結構でムいますが、斯な小さな家庭に閉籠て活氣を抑るといふ所謂箱詰主義にでもする樣な仕方は誠に子供の心身の發展を沮害しはせずやと憂ふるの餘り私はモーモー出來る丈ゾロ〳〵と田舍らしき所に連出して活動さして居ます。

寄綴の仕方

上村百代女史談

賢明の譽の高かつた英國の故ビクトリア女皇は皇女方に技藝をお學ばせになつて之に因りて賃銀を得ることの如何に至難なるかを味はせると申すことであります、近頃日本では女子の技藝教育が非常に進歩して參りまして各種の手藝が各階級の婦人間に流行して居ります、併し此技に因て相當の收益あるまでに上達する人は幾人ありませうか、それはなか〳〵むづかしいことでありますが假令それほどの技倆を有するには至らずとしても一ッの技藝が身に附て居りませば其人の一生には大變な便利であります、唯之を學ぶ事が

▲流行を趁ふ一時の虛榮の一ッに終らぬやうに致したいと思ひます、尙ほ一層進んでは自分の學びました事が一家の經濟上にも利益するやうになりませば誠に結構です、それ故私は何なりと未熟な身に及びますことを御話しするのは厭ひませぬが、何分にも手先の業は紙上で說明しても御了解にはなり惡からうと思ひます、併し折角の御尋ね故家庭の主婦に取つて最も必要なる「カケハギ」の四五種を申上げませう

▲縮緬や絹布に橫裂がしたとか或は裁ち間違ひをしたとか或は洋服に鍵裂をしたとか申す場合に奧樣方が御自分でお繕ひなさることが出來ましたら大へんに重寶です、それに反して一々之を商賣人の手に掛けましては急の間に合はぬのみか非常に高い賃銀を取られます、勿論綴物と申すことは普通學校の裁縫科でも敎へますが本來は縫箔師の仕事で、裁縫敎師の敎へますのは、獨特の技倆を以てしますので、所謂縫箔師のする綴物の仕方と

は少し違うやうに思ひます、最初に寄際のことを申しますが其前に

▲釜絲の撚方

を御話しませう、普通素人がなさるには地質の絲をほぐして遣つても宜いが釜絲を撚つて御遣ひになれば尚ほ宜いのです、釜絲は俗にネリグリと申しますが一體釜絲は七本或は五本の菅絲を合せて出來て居ります、それを一菅宛に放し、二本の菅絲を撚り合せて用ひるのですがその撚方は最初釜絲を一尺六七寸の長さに鋏にて切り疊に掛釘若くは錐のやうなものを刺しそれに絲をからげて引張り一菅宛に分け要らぬ分は手より放ちて片寄せ二菅だけを引張つて一本の絲を口にくわへ一本の絲を左右兩掌の間に入れ、右方の掌を下にさげて五ッばかり撚り、撚れた絲は口にくわへ、一方の絲を前と同じやうに撚り、二本を平らに引張つて逆に(右手を上にあげる)六ッほど撚つてたるみなき樣好く引張り掌の垢の附きたる處は切り捨て針に通して用ひるのです、此釜絲の撚方を知つて居りますと大へんに重寶で、若しも撚り方が惡いと仕上げが綺麗に往きませぬ

さて其縫ひ方は別にむづかしいことはないので、好く其裂目を曲らぬやう平らに合せて五厘置き位に細かく裂目の上下或は左右に縫ひ、裏の方より薄く姫糊を引き、表の方より鏝を掛ける、鏝を掛けるときは縫ひ合はせた上に柔かな紙又は布を載せて其上より當てるやうにしないと不馴の人は飛んだ過ちを仕出します、又縫ひますときも成るべく絲の綾が織方と一致する樣に針目を出すのが肝要です、例之ば縮緬ならば絞の浮いた處を拾つてすくふ樣にすればつまり表の方は絞のひくい處に針目が出るやうになつて、仕上げて仕舞ふと少しも分らぬやうになります、絹布の中でも斜子は一番むつかしく馴れぬ方には手際好く出來兼ねます總じて斯う云ふ細工は仕方を知つて居つてもなかなか巧みには出來ぬものですから上等の御召物ならば矢張り商賣人の手に掛けた方が宜しう御座いませうが一寸したものは只ブッ〳〵に綴ぐよりは右の樣になすつた方がいくら宜しいか分りませぬ

(羅紗、セル、フランネルなどの鍵裂を縫ふには絹絲にて宜しう御座います)